

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2790200022		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい海老江		
所在地	大阪市福島区海老江1-9-13		
自己評価作成日	平成 30年 10月 2日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2790200022-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 10月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時から大きな一つの家族になることを目指しています。利用者様と職員が 共に楽しみ共に考え、喜びを分かち合い暮らしています。地域の住人として、地域の方が温かく見守ってくださる中 散歩や様々な行事への参加を通じて豊かに暮らしておられます。ホームにおいては入居者様が今までと変わらぬ生活をしていただけるよう職員は お一人お一人に寄り添って支援させていただいています。また 月に一度 ホームにおいて認知症カフェを開き 地域に暮らす認知症の方とそのご家族が ホットと一息つける時間を設け 入居者様と一緒に楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して9年を迎えるホームは、認知症専門の地域の社会資源として、住民と共に認知症の人にやさしい街づくりを目指しています。地域への感謝を表したいと、地域貢献の一環として認知症サポーターの養成や認知症カフェを始めました。職員は、利用者を中心とした大家族の一員として、共に楽しく、豊かな気持ちで暮らしています。日中訪問の困難な家族に「寝顔だけでも、見に来てください」との声かけは、利用者の思いを大切にしながら、家族と共に利用者を支えたいとの思いが表れています。ホームでは、制限や拘束のない自由な暮らしが提供され、職員、利用者の笑い声が響いています。毎月の「こころあйдより」で一人ひとりの様子を丁寧に伝えており、遠方の家族にはメールで連絡するなど、細やかな配慮がみられます。ホームの設えは、檜や桜の木材を使用し、利用者が過ごしてきた昭和のレトロな雰囲気で包まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フィールドの理念を各フロアに掲げ理念を共有し日々のケアの実践につなげている。又、職員の行動指針として「私たちの誓い」を共有している。コンピテンシーの研修を通して自分達の思いをまとめた行動指針を共有している。	「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を法人理念に掲げています。理念の基、私たちの誓い「入居者さまお一人おひとりの普通の生活(権利)を護ります。-人が見ている時も、見ていない時もいつも変わらない対応をします-」を基本姿勢としています。また、『「北風と太陽」の太陽のように、わたしたちは陽だまりをつくります。お互いに思いやりをもってさりげなく声をかけることで、自然に安心できる笑顔を向けることのできるホームをつくっていきます。わたしたちは取り合った手を離しません。ずっとその日まで』をホームページでも示し、管理者と職員は、理念を日常生活の中で具現化しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で生まれ育った利用者様もおられ、馴染み深いので、地域行事には意欲的に参加している。月1回コミュニティセンターで実施されている「ふれあい喫茶」へは、毎回参加しており、地域交流が図れている。包括や地域事業所のケアマネさんとも連絡を取り合い、利用者様が地域と繋がって暮らしていけるよう支援している。月2回の公園清掃に入居者様と一緒に参加し、地域の一員として貢献できるよう努めている。	自治会へ加入しています。回覧板や運営推進会議を通して、地域の情報を得て、夏祭り、運動会、地蔵盆などの行事に参加しています。利用者一人ひとりが地域住民の一人として、地域と繋がることを大切にしており、日常的にも散歩や買い物、公園掃除に参加し、近隣の人達と挨拶を交わしています。地域3か所で行われている「ふれあい喫茶」には毎月参加し、馴染みの関係ができました。地域の資源として、いつでもホームを気軽に訪ねてもらえるよう「こころあいオレンジカフェ」(認知症カフェ)を始めました。カフェには、地域の方の参加もあり、フラワーアレンジメントなどのレクリエーションやコーヒータイムなどで、楽しい時間を過ごしています。認知症の専門機関として認知症サポーター養成講座の開催や窓口相談に応じられる体制もつくり、地域貢献を積極的に行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の認知症の方の相談を受け、情報を共有している。社会福祉協議会開催の月 1 回の居宅連絡会や2ヶ月に1回の福島区在宅医療を考える会にケアマネや管理者が参加し、地域の方々の状況等を伺い、認知症についての質問を受ける等、情報を交換し、共有している。またホームにて認知症サポーター養成講座を開き認知症理解への取り組みをしている。また、毎月最終金曜日にホームにて認知症カフェを開催し 認知症の方やそのご家族、ご近所の方、他事業所のケアマネさん、地域包括支援センターの方など どなたにでもお越しいただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回事故報告や行事報告等を行い、意見交換の結果を現場へフィードバックし、新たな取り組みやホームの運営とサービスの向上に活かしている。又、当日出勤している職員も出来るだけ参加し、交流を図っている。身体拘束に対する取り組みについても報告をしている。	運営推進会議は、開催規程に沿って年6回開催しています。年3回は書面でのやり取りが可能となりましたが、地域交流を深めるために、2か月に1回、利用者、家族の参加を積極的に働きかけながら、連合会長、民生・児童委員長・町会会長、地域包括支援センターの職員が出席して開催しています。会議では、ホームの近況報告や地域の情報交換をしています。地震や台風など災害の話題は、地域の防災問題として話し合う機会となりました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	フクキタ+認知症を考える会、居宅連絡会や介護ホーム連絡会、社会福祉協議会主宰の研修会や講座、自治会の交流会等に参加し、交流を深め協力関係を築いている。ホームに地域の民生委員やチャイルドサロンのボランティア活動が続けている職員が居り、地域との橋渡しをしてもらいながら、地域と協力関係を築いている	区の介護支援専門員の会議や「介護ホーム連絡会」に出席して情報交換を行っています。連絡会は、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの事業者も参加しており、ホームの空床情報などを共有し、地域の認知症の人達の生活を支えています。住民への情報提供も行っています。事故発生時には、速やかに市へ届け出る体制も整っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにおける研修や事例を通し、入居者様の身体面から心情に至るまで尊厳を守る取り組みをしている。また職員同士 相談し合いながら拘束の無いケアを心がけている。 立地条件や家族様の要望により 事務所に人のいない時は玄関の施錠をしているが 一定時間は開錠しており入居者様が外出を希望されるときは随時職員が同行している。洗濯物干しや庭掃除、花の水やりにも入居者様をお連れし、いつでも外出できる事を体感してもらっている。運営推進会議にて身体拘束に対する取り組みを報告し意見をいただいている。	管理者、職員は身体拘束をしないケアの重要性を認識しています。玄関は開錠し、エレベーターも自由に乗り降りできます。拘束することの、精神的・身体的なデメリットを理解した上で、目配りを重視し、安全面に気を付けながら自由な暮らしを提供しています。マニュアルを整備し、定期的な研修を実施し、常に適切な言葉遣いや行動制限しないよう意識付けています。外へ出たい様子をキャッチした場合、一緒に付き添い、出かけています。外部評価調査員の訪問中にも事務室に利用者の方が入室されてきましたが、行動を制限するのではなく椅子をすすめ、一緒に過ごしてもらっていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内において 虐待防止についての勉強会を行い また社外研修に参加することによって理解を深め 虐待防止に努めている。また職員同士、些細なことでも指摘し合える環境を作り 虐待が見逃されないようにしている。打撲痕を確認した時は必ず原因を検証し、結果を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修や入社時、新入職員研修で学び、ホーム内研修でも知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、専門的な用語を用いず、項目毎に充分時間をかけ説明し、不安や疑問点を尋ねながら理解、納得していただけるよう進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情対応窓口（ホーム内のみならず、外部機関の窓口も）を明記するとともに、玄関にも責任者名を掲示している。投書箱を設置し、また、地域住民代表による苦情受付担当者の設置等広い間口での環境作りに努めている。 ご意見や苦情に対しては、真摯に受け止め運営に反映させている。	利用者一人ひとりの担当職員を決めており、家族の来訪時には積極的に要望を聞くように努めています。また、毎月の「こころあいだより」で一人ひとりのホームでの様子を丁寧に伝えていきます。家族と共に利用者を支えることを大切にしており、来訪が難しい家族には、メールや電話で連絡を取り、要望を把握しています。利用者の思い出の写真を DVD にまとめて家族に渡し、ホームでの様子を知ってもらう機会にしています。「敬老会」の日に家族会を開催し、食事会を通して和やかな雰囲気づくりを心がけ、家族の声を聴く機会にしています。出された要望は、ホームで話し合い、運営に反映させています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何かあれば職員はフロア主任に相談し、両フロア主任、管理者で話し合っている。管理者も随時聴き取りを実施し、提案等は、代表者、幹部職員が集う運営会議で提起し、検討後フィードバックしている。また、月1回のホーム内全体会議やカンファレンスでも意見を述べる機会を設け、運営に反映させている。一緒にホームを運営しているという意識を共有し、理想のホームとなるよう取り組んでいる。	管理者は、日頃から職員の声を大切にしています。また、カンファレンスを通じて自由に意見が出せるよう場を設けています。職員から提案された意見が、日頃のケアに活かされています。法人は、現場経験を積み重ねた管理者を登用する方針を持っています。実践を経験した管理者は、職員の思いを汲み取りながら、働きやすい環境づくりに努めています。職員の管理者への信頼は厚く、ケアの充実に繋がっています。法人は、資格取得や研修への支援体制を整えています。また、勤務異動の希望を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成にあたり、事前に月2日の希望休暇を聴き取り、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整えている。不安や問題があった時は随時面談し、意思の疎通を図っている。 定例のホーム内全体会議において、ホームの方向性を伝え、意見を出し合い、やりがいや向上心が持てる職場環境作りに努めている。また 不定期に管理者が職員との面談を行い 各自の思いを組み、やりがいを持って働けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からのケアに関する不安や学びたい事を聞き取り、月1回の勉強会にて不安解消・知識向上を図っている。勉強会では資料を基に職員主導で勉強会を実施している。 働きながらの資格取得に関しても、勤務体制や金銭面での応援制度を設け、介護福祉士、ケアマネ資格取得応援制度、防火管理士、実践者研修、リーダー研修等社外部研修も積極的に受講出来るよう支援し、参加して得た情報は職員間で回覧・共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの居宅連絡会や医療を考える会、介護ホーム連絡会、フクキタ+の会、各種勉強会に積極的に参加し情報交換を行い、交流している。又、見学会にも積極的に参加し、意見交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。福島区や近隣の施設と連携し空室情報を月1回まとめ、共有している。空室の問い合わせがあった時はその情報を活用し、空いているところを紹介している。 福島区の有料老人ホームや障害者施設が催すレクにお誘いを受け、入居者様を数名お連れし、参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族から伺った生活歴などについての情報をもとに、ご本人がどのような生活を求めているのかを普段の会話や行動から感じ取り 管理者、ケアマネ、職員間で共有し 意見交換を行っている。又、仕草や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望された時から 面談や電話連絡を通して現状をお聞きする中で不安や要望なぞに傾聴の姿勢で寄り添い個別支援の方法を考えている。又、入居された後も 気づきの点があればすぐに申し出ていただくようお話ししている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族共に 担当者会議に参加していただき まず必要なことは何かを見極め カンファレンスにて情報の共有と意見交換をしてご本人に寄り添ったサービスができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人様本位の生活に寄り添いながら、役割を持ち、日々の生活の中に生きがいを見出し、安心して生活出来るようサポートさせていただいている。又、人性の大先輩でもある入居者様より、様々な事を教えて頂き、尊敬の念を持ちながら、共に暮らす大きな家族と捉え、信頼し合える関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様との関係が、一方通行にならないよう、お便り(「こころあいだより」)やお電話にての連絡、運営推進会議や家族会の開催時における意見交換等、良い事も、悪い事も報告し、一緒に考え、知恵を出し合い、共に本人様を支えるという関係を構築している。面会時には、日々の様子を伝え、介護記録を見て頂くようにしている。日常はもちろん、遠足や行事にも積極的に関わって頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪された時は、楽しい時間を過ごしていただけるよう環境を整えている。又、どんな時間にも来ていただけるようお声掛けしている。ご本人が馴染みの場所と関係が途切れなように、日常会話の中にその話題を取り入れたり その場所に出向いて馴染みの方との交流を支援している。	職員は、家族や友人が訪問しやすいような環境づくりに努めています。近隣の友人と一緒に喫茶店へ出かけたり、近隣の馴染みの店への外出や外食など、入居前までの生活が継続できるよう家族の協力も得て、支援しています。ホームから外へ出ていくだけでなく、近隣の人が自由に来訪できるよう、認知症カフェも始めました。また、近隣の商店街のてんぷら店やハンバーグ店がホームで料理を振舞ってくれるなど、地域商店との繋がりも大切にしています。今後は、駐車場スペースを活用した、地域の人達と繋がるような取り組みも検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格、時代背景に配慮し、相性もふまえ良好な関係を構築、維持できるように居場所を確保している。入居者様同士のコミュニケーション力にも配慮しながら、一人も孤立する事無く、安心できる居場所を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活環境にも留意し ご家族からの相談や想いに随時対応し、情報交換や助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、少しの変化、表情、しぐさなどから その方の思いや希望を汲み取っている。また、ご家族との会話の中においても情報を得て カンファレンスや日々の業務において全員で共有、把握している。	家族の協力を得ながら、入居前の生活歴と共に、どのような暮らしをしたいか、思いや意向を聞き取り、タブレットを活用してパソコンに整理しています。終末期はどこで過ごしたいか、どのような生活を望むのかなど、一人ひとりの思いを聞き取り、ケア計画に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行うご本人やご家族との面談の中で可能な限り情報を得、できるだけ早く馴染んでいただけるように その情報をもとに生活環境を整え これまでの生活に近づけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や職員間での申し送り、医師や看護師との連携により、身体状態を把握すると共に その方の表情の変化や会話の内容、行動より 心身の状態を読み取るよう努めている。一日の過ごし方についても あらゆる情報をもとに どのように過ごしたいのかを見極め それに沿った支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人から、日常生活の中で要望や不安等をお聴きしている。家族様には、ご本人の様子を訪問時や電話にて伝え、話し合いをして介護計画に反映させている。職員間においては、月 1 回開催されるカンファレンスや毎日のモニタリングにて、現状確認と達成状況の振り返り並びに見直しを図っている。体調など変化のあった時は連携医や本人様、ご家族と相談し 新しい介護計画書を作成している。	介護計画は、6か月に1回ごとの見直しを行っています。居室担当者が決まっており、ケアマネジャーと共に一人ひとりの要望を把握し、家族の要望も取り入れながら、計画に反映しています。具体的なケア計画は、実施されたかどうかチェック表を活用して、毎月モニタリングを行っています。記録類は、タブレット、パソコン管理に変更したばかりで、日々の関わりや利用者の様子が見えにくいものになっています。	日々の実践したことや利用者の様子が、タブレットの記録になり、見えにくいものとなっています。今後、計画に沿って実践したことや利用者の様子を記録に残すような工夫が求められます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は ご本人の日々の様子は、表情や言動、あった事をそのまま記録し、全員で共有している。また、申し送りや申し送りノートにおいても 情報共有を行っている。個別記録においては ケアプランに則した内容も記録している。介護計画をもとに 実践を行い、カンファレンスなどで情報交換し、変更すべき点があれば見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様の希望に応じ、好きな時間での面会、外出、外泊等のニーズに応えられるよう支援している。 (望まれる買い物・外食等) 又、訪問リハビリや訪問マッサージを活用する等、ご本人のニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、社会福祉協議会、自治会、民生委員会、女性会各位とご家族と定期的に交流し、ご本人の安全で豊かな暮らしについて共に考えている。また 地域の行事などにお誘いをいただくので 参加し楽しい時間を持って頂くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医（内科）による定期往診（月2回）、定期検査、訪問看護により、日々の健康管理を通して状態の安定に努めている。緊急時には、連携医の指示を仰ぎ、家族様にも直ちに連絡し、必要に応じて、紹介状を書いて頂き、専門医療機関にて受診している。	希望があれば入居前からのかかりつけ医に受診できます。ホームの主治医の往診は月に2回あり、訪問看護師との連携により、日々の健康管理が行われています。往診結果や看護師からの指示などは連絡ノートにより職員間で共有しています。夜間や急変時にも速やかに必要な指示を受けることができます。希望される方には、歯科や眼科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定値や身体状況を介護記録に記録し、週1回の訪問看護の時と月2回の全体往診時に医師・看護師往診（訪問看護）時に利用者の状態を共有している。身体的状況の把握の中で気付いた事や気になる事があれば、随時看護師に報告・相談し、指示を受けることで、早期対応（適切な受診や看護）と悪化防止に努めている。また、訪問看護師から受けた指示や助言は日々の申し送りや申し送りノートで、職員同士で共有し、日々のケアに反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は、随時面会による状況把握させていただくとともに、食事時間帯に面会(訪問)し、食事のお手伝いをしたり、ご本人の要望を聞き取る等、メンタル面でのケアもはかりご家族と情報交換をしている。退院時には医師等の病院関係者からの指示や助言を受け、退院後の日常生活の留意事項の把握に努めている。又、退院後の経過観察も含め、病院関係者との関係継続に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時にご本人、家族様が希望された場合は看取りを行っている事を伝え、説明している。又、重度化したり、終末期が近づいたと医師が判断した場合は再度、家族様と面談し、看取りの説明を行うと共に話し合い、ご本人や家族様の意思を確認している。職員にも都度、看取りの研修を行っている。	「看取りケア指針」を整備し、本人、家族の希望があれば看取りのケアを実施しています。職員は定期的に研修で看取りについて学んでいます。利用者の状態に変化があれば、医師、看護師、介護職員、家族と共に話し合いを行い、看取りのプランを作成します。ホームでの暮らしのなかで自然にその時を迎えることができるように、職員は家族と共に寄り添って支援を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜、看護師に応急手当、緊急時の対応等の指導を受けている。大阪市の上級救急講習を受け AED の使用法や救急救命の実践力を身につけている。社内勉強会を通し、情報を共有している。なお AED も設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを職員に周知し、緊急連絡網の活用、避難経路の確認等危機管理委員会主導で必要な対策を講じている。年2回消防署の協力の下、全入居者様、職員で避難訓練を実施している。別に夜間を想定した訓練も自主的に実施し、災害に備えている。食糧や水も確保し備蓄している。	「防災及び非常災害時緊急対応マニュアル」を作成し、火災、地震、風水害に対応できるように準備しています。年に2回夜間の想定も含めた避難誘導訓練を実施して、必要な備蓄品も整備しています。避難訓練には隣家の住民が参加したり、地域の避難訓練にはホーム職員が参加するなど、地域住民としての相互協力が行われています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個人情報や入浴時、排泄時等、入居者様のプライバシーを損ねないように利用者様一人ひとりの尊厳や人権を守りながら声掛けなどを行い、支援している。	職員の基本姿勢として「入居者の普通の生活を護る」ことを掲げており、具体的には行動指針として、丁寧な話し方、聴き方、対応を明文化しています。利用者のペースに合わせ、急がせたり、行動を制止することがないように、日々の支援が行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で ご本人の思いや希望を見出しその上でいくつかの選択肢を示し自己決定できるように働きかけている。また、自己決定や意思表示の困難な入居者様の表情や発語、動作などから意思を汲みとり、自己決定に結びつくよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や個々の状況を把握した上でその人らしい時間を過ごしてもらえるように努めている。入居者様が個々のペースでフロアにて他の入居者様と過ごし 歌などのレクリエーションを楽しんだり 居室にて過ごす等 希望に沿った暮らしができるよう支援している。また散歩や買い物などの希望があった時は付き添い安全のもとに楽しめるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が毎朝整容し自分で選んだ服を着てその日を過ごせるよう支援している。意思表示の困難な方には声掛け、介助にてその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。化粧や髭剃りなども安全面に配慮し支援している。訪問美容により カット、パーマ、毛染めなどその人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の段階から利用者様と一緒に色々会話しながら、調理の補助や、食事の準備、盛り付けや後片付けなどをしていただき、食べる事だけではなく、楽しんでいただけるように取り組んでいる。また視力の衰えた方にはおいで楽しんでいただけるようお声がけしている。	業者が作成した献立にそって食材が届けられ、3食ともホームで調理を行っています。食事作りが始まると利用者は野菜の皮むきをしたり、包丁を使える方は刻んだり、それぞれが出来ることを行います。キッチンからはご飯の炊ける匂いがし、野菜を刻む音、食器を準備する音などが聞こえて利用者の五感を刺激しています。月に1回「食レク」として利用者の希望する献立をみんなで作ります。天ぷら、ちらし寿司、栗ごはん、ギョーザ、串揚げなど、利用者にも好評です。平成30年の敬老会の時には地域のレストランのシェフにホームに来てもらい、利用者の前で直接ハンバーグを作ってもらい、家族と共に食事を楽しみました。毎月3回はふれあい喫茶などへ出かけたり、大型店舗などのフードコートで軽食を楽しんだり、暮らしの中で食べることの大切さを重視した取り組みが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	栄養バランスについては、食材提供会 社よりカロリー計算されたメニューに合 わせた食材が提供され、利用者様 個々の食事形態に合わせてホーム内 で調理して提供している。水分補給に 関しては、1日最低でも1,000cc 摂取し てもらえるようにいつでも自由に飲んで いただけるよう、お好きな飲み物(カル ピス、コーヒー、ヤクルト、緑茶、紅茶 等)を用意し、職員も利用者様の体調 を考慮し、観察しながらその時の状態 に応じた飲み物を用意し積極的に水分 摂取していただけるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声かけ、見守 りを行いながら、自己にて困難な部分 を介助させて頂き口腔ケアを実施して いる。義歯の方は、夜間預かり義歯洗 浄を実施し薬剤につけて保管してい る。 又、月2回歯科医師による往診、週1 回の口腔ケアを受けられる等、専門性 の高い口腔ケアの提供にも努めてい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声かけ・誘導を行っている。又、失禁の軽減が図れる様、声かけの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来る限りトイレで排泄していただけるよう支援している。	トイレでの排泄を基本にしています。排泄記録をとり、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの状況に合わせた見守り、トイレ誘導などきめ細やかな支援をしています。排便もできるだけ自然に排泄できるよう、運動やマッサージ、水分補給などに気を付けて、便秘予防に努めています。利用者の羞恥心や誇りを傷つけないよう、排泄時の誘導の声かけにも注意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の調整や、乳酸製品の摂取、芋、バナナ等繊維質の多い食物摂取に努め、腹部マッサージや体操等を行い予防に努めている。 訪問看護師や医師と連携し、便秘の解消等適切な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の見守りが十分に出来る安全な環境で入浴していただけるよう時間帯の配慮を行っている。入浴の時間や浴室の室温、脱衣所の温度などは利用者様の体調を考慮し、利用者様一人ひとりが入浴を楽しんでいただけるよう支援している。また、菖蒲湯、ゆず湯、ミント湯などの季節湯で楽しんでいたくなどしている。お風呂嫌いの方にも楽しく入っていただけるよう声かけを工夫したりタイミングを計ったりしている。	利用者は平均週2～3回入浴しています。できるかぎり希望に沿って入浴できるように努めています。入浴を拒否する利用者もいましたが、無理強いするのではなく、時間をかけて、足浴からはじめ、段階を踏んで、入浴を楽しんでもらえる様になりました。言葉かけの工夫、入浴剤の使用、湯船にアヒルのおもちゃを浮かべるなど、気分転換を図りながら、入浴を楽しんでもらえるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の体調やニーズは毎日変化するので、体調管理を十分に行いながらも、出来る限り本人様の希望や要望に添えるように取り組んでいる。気持ちの昂り等で眠れない時には寄り添って傾聴し、また、会話をしたり、温かい飲み物を飲んでいただいたり 足浴などを行ったりして、安心していただけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については、全職員が把握し、薬の変更、増減に関しての把握も薬情の確認や申し送りを通して周知徹底している。 服薬介助の際には、ミスがないよう三重チェック態勢での服薬支援を行っている。 又、服薬後の状態観察も怠らず、職員間で情報共有し、医師・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は 一人ひとりの生活歴を入居時に全員で把握し、入居後の様子と合わせて その人に合った役割(掃除、モップがけ、食事の準備、皿洗い等)楽しみごと、気分転換の支援をしている。 また、嗜好品についても 状態、表情、言動の中から、今その方が何を必要としているのかを見極め その人に合った支援ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	もともと近隣に住んでおられた入居者が自宅を思い出し気にされたら同行し見ていただく。又、その時、近所の方を訪問し交流を支援している。入居者の希望に添って外出(散歩、ドライブ、買物、芝居見学等)していただけるよう配慮している。 又、家族様の協力の下、一緒に散歩や外食、一時帰宅等の支援を行っている。	夏場は体調のこともあり、外出を控えていましたが、日頃はできるだけ外気に触れる機会を作っています。近隣のコンビニやホーム周辺への散歩など、毎日外出するようにしています。また、近隣の友人が訪問し一緒に喫茶店に出かけることもあります。毎月、地域で行われている「ふれあい喫茶」には、利用者全員が参加しています。地域の地蔵盆、餅つき大会、運動会、盆踊りなどへも参加しています。また、年に数回の工場見学や花見、紅葉狩りなど、家族の参加も募りながら、遠足にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、家族様から一定額を預かり、外出の際、本人に手渡し、自ら考え買い物をして頂いている。精算の際には本人様にお支払いしていただくよう同行の職員が見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りをして頂ける様お声かけをしている。 家族様にも「何時でも電話して下さい」と伝え取り次いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁に季節に応じた装飾や、入居者様の作品(塗り絵等)を展示し、和めるような雰囲気作りを心掛けている。昭和レトロの雰囲気を大切にし、アンティークな小物を随所に配置し昔を懐かしめる雰囲気を醸し出し、落ち着いた環境で過ごして頂いている。 又、玄関には地域の方の協力の下、季節の花や手作りの創作物を置く等、ホーム内でも季節を感じていただけるよう心掛けている。 共用空間、各居室の室温・湿度に配慮し心地良く過ごしていただけるよう努めている。	玄関を入ると、ダイヤル式の電話機、壁一面のボードには、その月のお気に入りのスポット写真が飾ってあります。近隣の人が、ランなどの鉢植えを定期的に交換してくれており、彩ある玄関の設えとなっています。フロアは利用者が生活してきた時代、昭和のレトロな雰囲気が感じられる造りです。ホーム内は廊下、壁、天井、照明カバーに至るまで檜や桜などの材木が使用されて、高い天井からは自然の光が差し込んでいます。照明も暖色で、落ち着いた空間となっています。各フロアの一角には、畳のコーナーやソファが置いてあり、利用者と家族が座って団らんできる場があります。蓄音機や柳ごおりの衣装箱、映画のポスターなど懐かしく、昔の生活を回想できるような環境が提供されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他に数ヶ所に大小のソファを配置し、畳コーナー等入居者様個人個人が好きな場所に入居者様同士や家族様との会話を楽しまれながら過ごされる等、リラックスしていただける空間作りを心掛けている。各フロアの行き来も自由にいただき利用者様同士の交流をしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居される以前の生活とホームでの生活との変化を最小限にとどめていただけるよう各居室には入居者様がご自宅で使用されていた家具やテレビ、衣類などを持ち込んでいただき、家具の配置も本人様が混乱されないよう配慮して、利用者様が居心地よくすごしていただける居室になるよう心掛けている。また家族写真や思い出の物を飾るなどしていただき、心地良く過ごしていただけるよう心掛けている。	居室の表札は、ホームの雰囲気と合わせて、丸太をカットしたものを使用しています。室内の照明も和の雰囲気を感じさせます。居室内への持ち込みは自由で、利用者は家族と相談しながら、今まで使い慣れたタンスや机、椅子、仏壇、テレビなど、馴染みのものを持参して生活しています。居室内には、家族の写真やぬいぐるみ、作品などを飾り、生活スタイルに合わせて居心地良く過ごせるように工夫しています。壁一面に好きなスポーツ選手のポスターを貼り、日々ポスターを眺めて、楽しんでいる利用者もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の介護計画を基に利用者様一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして生活意欲の向上に繋がるような声掛けや役割を共有し、自己能力を出来る限り活かしていただけるよう支援している。安全面においては、危機管理委員会を中心に安全かつ利用者様の自立支援に繋がるような環境を作れるよう全職員で取り組んでいる。		